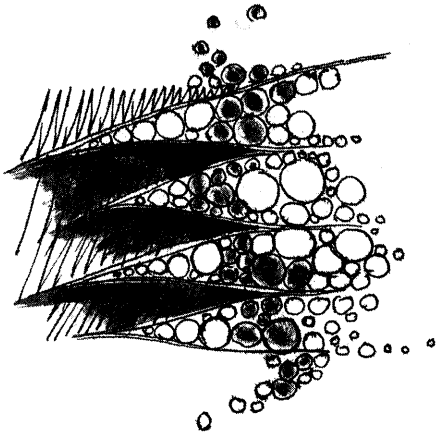


子どもにとって楽しい

音楽リズムのあり方を考える(1)

原口 純子



はじめに

昭和五十年頃よりそれまでの六領域を中心とした指導観から保育の流れは大きく変わり、子どもの自主性や主体性を重んじる方向に重点が置かれるようになった。自由な活動を重んじる倉橋惣三の保育観が再評価され、自己充実が大切である事、遊びの充実こそ幼児の心身の発達にとって最も望ましいこととして指導されるようになった。

った。以降約十年の中で、子どもが自主的に遊ぶことの大切さの認識、そのための教師のあり方、環境・整備の重視、ままごとやその他のごっこ遊びの大切さ、仲間づくりを中心とした学級経営などが強調されるようになった。

これらの事柄は理論上大へん好ましいことであるが、現実を見た場合この指導と方向づけの中で、子どもたちははたしてしっかりとした成長を保障されているだろうか。あるクラスの子どもたちは伸び伸びとした生活の中でしっかりとした仲間関係を作り、歌や劇や運動、製作においても持てる力を十分に伸ばし、力をつけて修了しているが、又別なクラスでは、子どもの集団も育たず、逆に以前であれば決まって与えられていた活動すらなくなり、伸び伸び、又は自主的の名のもとに、いっそう貧弱な保育内容と生活経験しか持たずに修了しているということもありうるのである。

子どもひとり一人が幼稚園に来て何を経験して一日を過ごしているかという、教師が与えたつもりを経験ではな

く、子どもが持った経験『実質体験』（注1）への視点は今日一層強調されなければならない。子どもを自主選択活動（遊び）の中で育てる保育観の上に立ち、教師自身が様々な活動について確かな知識と技術とを再確認しなければならぬ。歌を子どもが楽しむにはどう指導すれば良いか、豊かな絵画表現を育てるにはどう指導すれば良いか、仲間関係を育てるごっこ遊びの環境づくりなど、一つ一つに教師が自信と確信が持てれば、個々の幼児の活動に対して的確な援助をすることができ、ひいては豊かな幼児期を経験させることができよう。

「遊びが大切」「遊びを通して育てよう」という言葉の中で、具体的な活動の内容があいまいになってしまっていることはないだろうか。これらの認識に基づき、本園では年間研修テーマに「音楽リズム」をとりあげた。

目次

I 主題について

II 研究方法

III 研究内容

0. 活動の洗いあげ一覧
 1. 歌唱 種類と傾向、事例と考察、歌の指導方法
 2. 楽器 種類と傾向、事例と考察、指導方法
 3. わらべうた 種類と傾向、事例と考察
 4. 手あそび 種類と傾向、事例と考察
 5. 踊り・フォークダンス等 種類と傾向、事例と考察
 6. 総合活動としての野外劇
 7. 劇あそび・オペレッタ
- ### IV まとめ

I 主題について

「子どもにとって楽しい音楽リズムのあり方を考える」

文部省の幼稚園教育要領（昭39告示）によると、領域音楽リズムに属するねらいとして

1. のびのびと歌ったり、楽器をひいたりして表現の

喜びを味わう（歌唱、楽器）

2. のびのびと動きのリズムを楽しみ、表現の喜びを味わう（動きのリズム）

3. 音楽に親しみ、聞くことに興味を持つ（鑑賞）

4. 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどに表現する（創作）

の4つの柱が立てられ、これらには26の小項目が含まれている。又教材の選択や指導に当たっては「生活の中にとけこませて、総合的な取り扱いをすることが大切である。（注2）」と述べている。

子どもが本心に心から歌やリズム表現を楽しむというのはどういう状況であろうか。子どもは本来男児も女児も歌うことも踊ることも大好きである。けれども保育の中で子どもたちは一方的教師に歌わされたり踊らされたりしていることはいないであろうか。

ボール遊びやままごと、製作活動が比較的子どもの選択活動として自主的に取り組まれているのに対して、歌や楽器、リズム表現は教師主導型の一斉課題活動として

残っている活動であり、生活にとけ込ませて、総合活動となりにくい、言いかえれば生活化されにくい分野である。

与えられたものとしてではなく、子どもが自ら楽しむ音楽リズムの指導はどのようなにあつたらよいか、実践を通して考えてみようとするものである。

II 研究方法

1. 活動の洗いあげ

園の中で日常的におこなわれている音楽リズムに属するものを、歌唱、楽器、わらべうた、手あそび、動きのリズムについて学年ごとに月を単位に洗いあげる 4月〜12月

2. 実践記録をとる

上記の活動について

- 一斉指導場面、自主活動場面での指導例
- 生活の中で自発的に歌ったりおどったりしている活動場面、などについて自由記述方法による

り記録をとる。

○野外劇及び生活発表会の劇遊びについて記録をとる

3. 研究保育

12月2日、県指導主事白井洋子先生を迎え研究保育を行った。

4. 創作、実技研修

リトミック、手あそび、野外劇の創作など実技の園内研修

III 研究内容

0 活動の洗いあげ

音楽リズム実施内容（次回掲載）

1 歌唱

(1) 種類と傾向

- 季節の歌（チューリップ、チョウチョ、かたつむり、とんぼのめがね、どんぐり）
- 行事の歌（誕生日の歌、七夕の歌、おかあさん

の歌、サンタクロースの歌)

○たのしい歌(ガンバリマンの歌、むすんでひらいて、友達讃歌、うたえバンバン)

○しつけの歌(歯をみがきましょ、お返事ハイ、バスっていいな)

○テレビマンガの歌(ペガサス、キャンディーキヤンディー、ぼんずしょうゆ)

考察

ア 季節の歌や行事の歌が多いのは、幼児の生活から見て当然とも言える。身辺の季節の移り変わり、季節の行事、身のまわりの動植物の歌は子どもの生活そのものと言える。従ってかなり古い歌でも伝統的に歌いつがれているものが多い。

しかし歌詞やリズムが古くなり今の生活感に合わないものは、しだいに歌われなくなっている(きくの花、たき火)。これらの歌に代わって、季節や行事に関係なく明るく、軽快で歌詞

のおもしろいものが多くとりあげられるようになってきている(ホ・ホ・ホ、ガンバリマンのうた、友達讃歌、小さな世界)。歌詞では、ホ・ホ・ホ、とかエイエイオー、5、4、3、2、1、発射!! などかけ声の入った歌が好まれている。

一方しつけの歌は、かつては幼稚園の歌の中でかなりの量をしめていたが(歯をみがきましょ、おへんじハイ、お片付け)、保育形態の変化、保育観の変遷に伴い、朝の集会などもなくなり、歌をしつけの道具として使わない方向に変わって来ている。

イ 幼稚園で歌われる歌が大きく変わって来たのは、昭和五十年代初に早川史郎氏が「現代子どもの歌一〇〇〇曲シリーズ」を出版したところにより、現代感覚で子どもの生活に密着した歌が、やさしい伴奏で紹介されたことによるところが大きい。

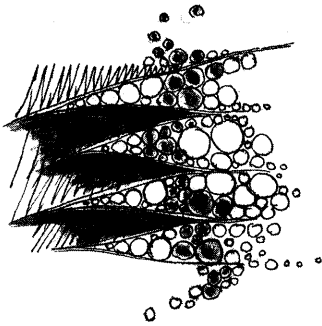
一方テレビマンガやテレビCMの影響もあり、ペガサスやキャンディーキャンディーは、レコードをかけ踊っているうちに自然におぼえて口ずさんでいることが多い。

ウ 4月5月など入園当初に、むすんでひらいて、チューリップ、手をたたきましょ、など手あ

そびと一体になった動作を伴った歌が多いのは、子どもにとってただ口で歌うだけよりも動作と一体になった方が心地よく歌いやすいため、おのずからそれらの選曲がなされているものと思われる。言いかえるならば、未分化性の強い幼児期は、歌を体中で歌っていると言えよう。

(注1) 「園生活における幼児の実質体験を探る」 昭和五十五年 吾妻幼稚園 原口他七名

(注2) 「文部省指導書 音楽リズム編」 P.3 文部省



— つづく —

(つくば市立校南幼稚園)